

双松会会報

第33号「双松会」通巻37号「松高北高同窓会報」通巻37号

発行 松江市奥谷町164番地 島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL: 0852-21-4888
FAX: 0852-21-4977
印刷 株式会社島根県農協印刷 TEL: 0852-21-3476

青春クワイティ Vol. 10

普通科22期・理数科1期 (昭和46年卒)

大にぎわいの「親話」博

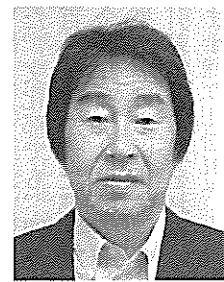
「オー、モーレッツ」それがいつちやー、おしまいよ」が流行った年に入學。「三無主義」「しらける」で二年生を過ごし、「ピース、ピース」「ヘンシン」が言われた年に卒業。人類初の月面着陸、東大安田講堂占拠学生排除、大阪万博開催、三島由紀夫事件、航空機事故相次ぐ、ドルショックなど騒がしかった時代。学校では、理数科が新設されて一期生となるほか、補習科も二クラスに増設された。こうした中で青春を過ごしたのが我々、四十六年卒組です。

開会に先立ち、亡くなられた恩師、同窓生に黙とう。恩師で唯一出席をいただいた山中淑郎先生が「君たちは千支が五周した。私は間もなく七周する。元気でこれからも活躍を」と乾杯。いよいよ同窓会の幕を開けた。

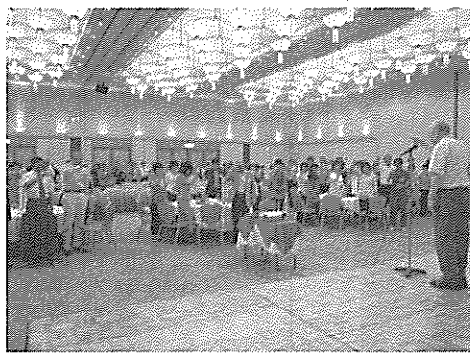
と返され恐縮する人も。しばらくすると、会場スクリーンにルームごとの卒業写真に続き、学園祭での仮装行列や体育大会の応援席デコレーション、遠足などの傑作写真が映し出された。映像のバックに流れる音楽はもちろん、「ヘイ、ジュード」などのビートルズナンバードと、フォークソング。「あの時のことを思い出す」「よくこんな写真を持っていたもんだ」など、懐かしむ声が響いた。個人的にはスナップ写真を持っている人は多いのだろうが、こうして大勢が青春の一曲を共有すると独特の雰囲気漂う。約三時間、高校時代の懐かしい話、その後のそれぞれ人生を語り合った一次会は幕を閉じ、場所を移して

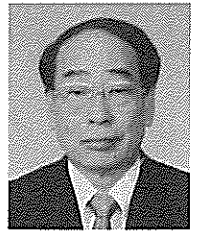
の二次会へと雪崩れ込んだ。二次会会場は、自由席。気の知れた者同士のグループができ、酒も手伝って騒がしいを通り越した感も。グループサウンズ全盛時代に育っただけに、腕に自信を持った人たちが楽器を取り出し、北高メモリアルバンドが結成され、今度懐かしのメロディーのオンパレード。飛び入りで演奏をバックに「亜麻色の髪の少女」やポップスなどを熱唱する人も。

次回(四年後の二〇一六年)に開く。元気で再会することを誓い合った。



西尾 俊也





ごあいさつ

会長 庄司 肇

双松会の皆様には、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

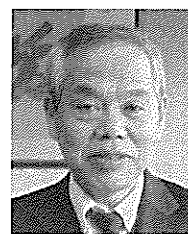
さて、昨年11月19日にはホテル一畑において創立百三十五周年記念総会を開催しました。会員の方々には、中学53期(昭和8年卒業)の大先輩を始め、多数(二〇〇余名)の参加をいただき盛大に行うことができました。そして総会開始前のアトラクションにおいて松江北高生の合唱部、箏曲部、弦楽同好会が出演し、若々しい演奏をしてくれて、現役生との交流を楽しみました。総会に合わせて北高の校地内にある起雲館(同窓会館)を開放しましたところ、多数の会員の方達に來館いただきました。二年間にわたって整備しました資料を見ていただき、さらに起雲館の中にある茶室では現役高校生のお手前で抹茶を飲んでいただきました。

最近、各地区での同窓会(東京、近畿、広島、米子)や各期毎の同窓会(特に人生での節目に当たる年齢の時等)が盛んに行われ多数の参加があると聞いております。同窓会

が益々盛んになることは御同慶のいたりですが、しかしどの同窓会においても最近卒業した若い人達の参加が少なく残念です。どの同窓会でも若い人達の参加が多くなるよう工夫をしています。一度出かけてみて先輩達と交流してみ

てはどうでしょうか。さて会報についてですが、毎年会報を発行し皆様にお届けしています。会報の届くのを楽しみにしていただいている会員の方が多数いらっしゃると思います。益々充実した内容にしたいと思っております。会報発行の費用も含め毎年の会の運営費(約四〇〇万円)を新入会員の入会費(約二四〇万円)をあてていますが、毎年約一五〇万円不足しています。平成19年にもすでにこの状態であったため、会報発行のための援助金を皆様にお願いたしましたところ、多額の援助金(約八〇〇万円)をいただきました。これを毎年使用させていただきます。これを行いました、いよいよ今回の会報発行で資金が底をつきました。そこで今回も別紙のように援助金をお願いするこ

とにいたしました。ご協力のほどよろしくお願いいたします。なお、予てより、海外に住んで活躍しておられる方達へもこの会報を届けてほしいという要望がありましたので、



ご挨拶

校長 河原 一郎

お届けすることといたしました。会の活動や母校の活躍の様子について知っていただけるようになると思います。

双松会の皆様方には、ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素から母校に對しまして様々なご支援・ご協力を頂き、誠に有り難うございます。

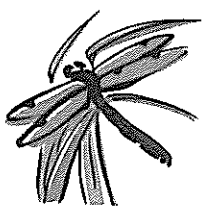
さて、この度の異動で勝部昌幸前校長の後を受け、本校に赴任して参りました。23期卒業で高校時代には、バスケット部で汗を流していました。

今の本校の生徒諸君も質実剛健の校訓のもと、文武両道をめざし大変よく頑張っています。特に、この3月には女子弓道部が全国選抜大会で優勝するという団体では昭和58年の合唱部以来の快挙を成し遂げています。県高校総体では男子が総合優勝しました。女子は7位で男女総合4位という結果でした。来年度

こそは男女総合優勝奪還を目指したいと思っております。私も各会場に応援にいきました。が、本校の生徒諸君、特に3年生は、悔し涙やうれし涙と色々ありましたが、最後まであきらめず大変よく頑張っており、感動しました。また、総体報告会では、各部のキャプテンが、保護者、監督や周りの人への感謝の気持ちを述べていました。こういった心を持っては、試合結果以上に大切であり、あらためて本校の生徒の素晴らしさを感じました。インターハイにも多くの部が出場し活躍しました。文化部でも、囲碁・将棋、百人一首かるた部・放送部が全国総文祭に出場するなど成果を上げています。今後とも引き続き応援をお願いいたします。

23年度末の進路状況も本県全体が苦戦する中で、例年通りの結果を残しており、今後とも文武両道の学校であり続けたいと思っております。本年度末には、昭和30年に松江工業から移管された通信制課程が、平成22年度宍道高校設置に伴い閉校することになりました。五千人を超える卒業生を送り出した通信制課程ですが、今後は宍道高校に引き継がれることとなります。平成25年3月17日(日)に本校において最後の卒業式及び閉課程の式を行う予定です。多数の方々のご参列をお待ちしております。

終わりになりましたが、双松会の益々の発展と会員の皆さまのご健勝とご活躍を祈念いたしました。会報発刊のご挨拶といたします。



事務局だより

一、会報助成金について
報告

二、寄付金のお礼

左記の方々より寄付金を頂戴いたしました。厚くお礼申し上げます。

21期より七万円

22期および理数科1期より十万円

62期より二千六六円

三、松江北高等学校資料室について
北高敷地内の同窓会館(起

雲館)三階に、一八七六年に創立された県立松江中学校以降の貴重な資料が展示されて



○会報助成金について報告 (平成24年3月31日)

平成23年度 会報編集助成金会計決算書

収入総額 3,558,343円
支出総額 1,500,000円
差引残額 2,058,343円

【収入】

費目	金額	備考
繰越金	3,557,870	
利息	473	
合計	3,558,343	

【支出】

費目	金額	備考
本会計へ繰り入れ	1,500,000	23年度発行会報
合計	1,500,000	印刷補助金として

います。さらに充実した資料室にするために、資料の提供をして下さる方は、ご一報下さい。また、平日の資料室見学をご希望される方は、ご連絡下さい。(なお、写真は、資料室内の写真です。)

四、各地区の双松会の動向について

○東京双松会の総会

平成24年9月30日(日)
於 アルカディア市ヶ谷

○近畿双松会の総会

平成24年11月10日(土)
於 中央電気倶楽部

○広島双松会の総会

平成24年11月10日(土)
於 広島ダイヤモンドH

○米子双松会の総会

平成25年2月中
(詳細は後日)

五、通信制課程の閉課程について

松江北高通信制課程を閉じ、完全に県立宍道高校へ移管されます。閉課程式は左記の通り行われる予定です。

平成25年3月17日(日)
於 松江北高校第一体育館

フォトコラム

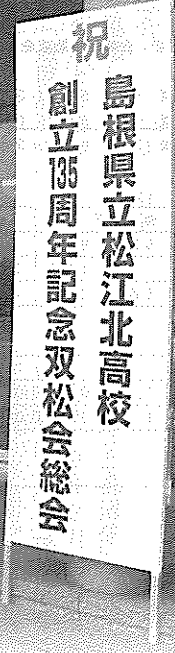
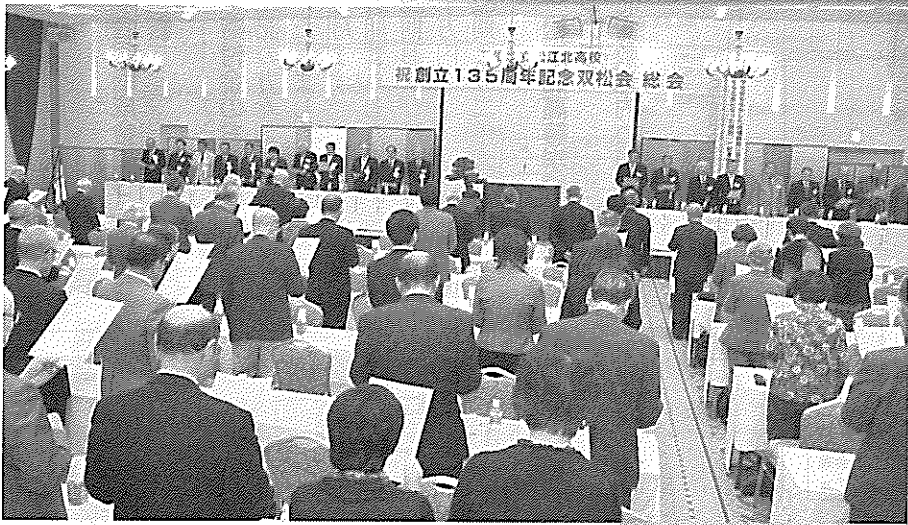
「川津校舎の記憶」



1978年度の卒業アルバムより。現在の松江とは大きく様変わりしています。当時建ったばかりの松江市総合体育館を手がかりに、現在の松江と比べてみましょう。

特集

昨年の11月19日に北高創立135周年記念式典と懇親会が開催されました。
今回の特集では、この式典を写真で振り返ります。



総会会場
ホテル一畑



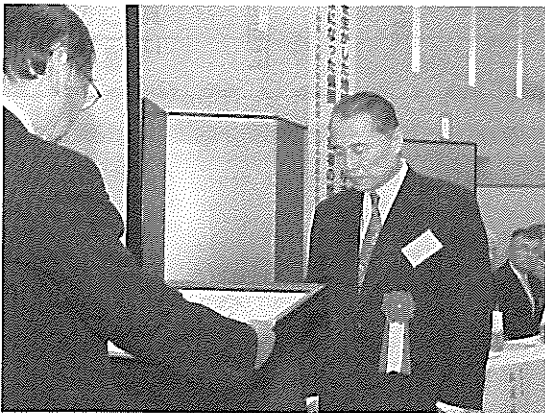
庄司会長あいさつ



功労者表彰 松本幹彦・前会長



来賓祝辞
松浦正敬・松江市長



感謝状贈呈 足立 洋様 (足立農園)



アトラクション①
箏曲部



記念講演
吉野勝美氏



アトラクション②
弦楽同好会





懇親会司会
渡部 忍、中脇寛之(45期)

乾杯



祝宴は続く



万歳三唱

双松会135周年記念総会会計決算書 (双松会記念総会基金)				
【収支決算】				
収入総額	4,966,052			
支出総額	2,554,221			
差引残高	2,401,831			---定期預金へ(140周年記念総会準備金)
【収入の部】				
費目	予算額	決算額	増減(△)	備考
譲渡金	910,540	910,573	33	130の周年会計より繰越(利益分埋)
納入金	700,000	2,835,733	2,135,733	100周年記念基金より(解約)
会費	2,000,000	1,100,420	△ 899,580	式典・懇親会費205名分
新聞広告費	0	0	0	
雑収入	0	119,276	119,276	寄付・税金、利息
合計	3,610,540	4,966,052	1,355,512	
【支出の部】				
費目	予算額	決算額	残額(△)	備考
新聞広告料	0	0	0	
会場費	200,000	170,000	30,000	式典・懇親会会場費、地先費
飲食費	100,000	102,000	△ 3,000	御花料・看板・演説代
懇親会費	2,000,000	1,426,742	573,258	料理・飲料・席料・サービス料・須賀税・演説代・ピアノ等
講演費	300,000	89,717	211,283	講師謝礼、司会謝礼、タクシー代(講師・来賓)
表彰費	200,000	138,327	61,673	記念品料(功労者表彰・感謝状)、賞状・感謝・表彰状
印刷費	250,000	390,915	△ 140,915	案内状・協賛票、封筒・式次第・祝状表・北高の沿革
通信事務費	100,000	33,270	66,730	ハガキ・切手代(案内状・資料送付)
会議費	100,000	20,003	79,997	実行委員会費料・コピー代
雑費	25,000	21,341	3,659	名札・名刺カード・封筒・領収証・会料・ラベル・写真代
予備費	35,540	191,836	△ 156,296	資料費・演説謝辞書(写真・看板代)、式典飲料代
合計	3,310,540	2,554,221	746,319	

記念総会次第 (於 サンシャインホール)	14:00~
物故者慰霊祈祷	
開会のことば	
校歌斉唱	
「赤山雄児の歌」「松江北高等学校校歌」(合唱部が賛助演奏)	
会長挨拶	
学校近況報告	
来賓紹介	
来賓紹介	
功労者表彰	
閉会のことば	
記念講演	14:35~
演題 「科学技術を生かした地域振興に寄与すべく汗する 古番になった樹園、一刻者の想いとつばやき」	
講師 吉野勝美氏 (11期)	
高知県産業技術センター所長、 大阪大学名誉教授、元日本液晶学会会長	
アトラクション	15:45~
琴曲部および弦楽同好会による演奏	
琴曲部	
*星のように	松本 雅夫
弦楽同好会	
*リュートのための古風な舞曲とアリア	
第3組曲より	
1イタリアーナ Ⅲシチリアーナ	O.レスピーギ
懇親会次第 (於 平安の園)	16:30~
開会のことば	
会長挨拶	
スピーチ	
乾杯	
☆祝賀☆	
万歳三唱	
閉会のことば	

各期だより

23期(昭和47年卒業)の皆様へ

玄行 登

還暦記念同窓会を平成25年9月22日(日)に松江市で開催します。詳細は来年の春に文書でお知らせする予定です。

34期(昭和58年卒業)の皆様へ

こんにちは。第34期(昭和58年3月卒業)です。私たちは北高が赤山に戻って3年目の昭和55年に入学し、高3の時にくにびき国体があった学年です。これまで学年全体での同窓会は行っていませんでしたが、卒業30周年となる今年度、ついに初めての同窓会を計画し準備を進めております。実行委員会で把握できたご住所に、7月の段階で往復はがきで予備調査を兼ねたご案内を差し上げていますが、このはがきが届いていない方は、同窓会への出席の有無に関わらず、下記のクラス幹事までご連絡いただけないでしょうか。正式な日程、会場のご案内をさせていただきます。

ます。クラス幹事に連絡がとりにくい場合は、7R内藤が松江北高に勤務していますので、はがきかFAX等でお知らせください(電話での問い合わせには出られないことが多いです)。今後の連絡方法等をお知らせします。

①日時 平成25年1月2日(水) 17時頃から

②会場 未定(松江市内)

③申込方法(連絡先)

クラス毎に状況が異なりま

すので、各クラス幹事にご確認下さい。

- 1R 岸井(小玉) しており、
2R 野津栄、3R 高見浩史、4R 錦織(中島) 正恵、
泉竜彦、5R 安達利幸、6R 中釜(来待) 智子、7R 内藤永嗣、8R 経種順治、
9R 浜崎(由木) 順子、10R 田口修

問い合わせ先

松江市奥谷町164

松江北高内藤永嗣宛て

FAX 0852-2114977

なお、実行委員会でフェイ

スブックページ「松江北高第34期同窓会実行委員会」を作成しています。ぜひ友達登録してください。
http://www.facebook.com/matsueki34th

東京双松会

地区だより

東京双松会 事務局長 泉 宏佳 高校14期(昭和38年卒)

これまでの三年間で、在京

地区の二、九〇名の全会員に、一度は東京双松会総会案内を送ってきた。また、活動状況を知っていただくため、「東京双松会」会報の発行も

行ってきたが、その結果「総会」出席者は一〇〇名から一〇〇名をコンスタントに確保しているが、まだまだ少数であり、更に多くの方の参加を求めたい。総会では、高校時代の部活動の思い出や現在の活動状況を報告してもらってきたが、昨年は野球部の報告を受けた。選抜高校野球大会に五十五年ぶりの出場を果たした楠井及び室本両投手をゲストに迎え、そして野球部OBの方からも多数の参加を得、更に母校からは試合ビデオを送ってもらい会場で放映した。また、飛び込みであったが、母校の機関紙「双松」に紹介された藤川画伯の児童画の展示も行った。総会には、

学生の参加も呼びかけているが、総会後に芦田会長を交えて懇談会を持ち、好評であった。今年度総会は、昨年と同

双松会地区だより

じ会場で、9月30日(日)にご案内のとおり予定しており、多数の参加を期待したい。

今後の課題だが、年間事業のうち、総会は総会会費で収支を合わせているが、会報発行やその他の事務経費については赤字運営となっている。これまでの資金ストックに若干の余裕があり、当面は会員拡大と活動認知のためには止むを得ない対応と考えているが、現在の会費納入会員約四〇〇名の拡大を目指すとともに、他支部の実態などを参考として健全化を図りたい。

次に、双方向の情報交換の手段として、会報のほか、「東京双松会」でホームページが開設されている。各期の活動報告や写真、文芸作品などの投稿をお待ちしており、一度アクセスしてみて頂きたい。

平成二十四年度総会案内

・期日：9月30日(日)

・正午から午後3時半ごろ

・会場：アルカディア市ヶ谷(私学会館)

JR、地下鉄「市ヶ谷」駅から徒歩二分

電話：03-3261-9621

・部活報告・演劇部(児童劇団「大きな夢」代表 青砥

洋氏(昭和36年卒))

問合せ：東京双松会事務局 新宿区西新宿7-16-6 「樹かます内」 電話：03-33361-4094

近畿双松会

地区だより

近畿双松会 事務局長 松本 耕司(高16期)

来年度には設立(戦後の再開)五十五周年を迎えるため、本年一年このことを念頭において運営してまいります。

昨年の総会は出身小・中学校や在籍クラブの情報を提供して開催したところ、世代間を超えた交流が活発におこなわれ、ひと味違った同窓会風景となりました。

引き続き、母校と郷土の発展を願ってなごやかに活動を続けたいと考えていますので、下記の総会、諸行事への皆様のご参加をお待ちしています。

一、本年度の総会懇親会

・期日：11月10日(日)

・正午～午後3時半

・会場：「中央電気倶楽部」

大阪市北区堂島浜二丁目

・講演は古事記千三百年にちなみ松江から八雲立つ風土記

の丘所長の本間恵美子さん(高19期)をお迎えします。(九月に詳細ご案内)

二、その他の主な行事

五月に懇親ゴルフ、七月に文楽鑑賞会を終え、九月三十日には神戸で清盛の足跡を訪ねる「歴史ウォーキング」、十月二十一日には大和柳生で「里山歩くぞーハイキング」、来年三月には落語鑑賞会と年度会報の発行を予定。

■お問い合わせ先

・事務局長 松本耕司宛
・携帯 090-6609-8817
・メール kmatsunoto@hi-home.jp
▼「近畿双松会HP」をご覧ください。各お申し込みもできます。
↓http://www.kinki-soushokukai.org/

米子双松会 地区だより

米子双松会 事務局長
中西 秀夫(昭和39年卒・15期)

米子双松会が誕生して40年。斉藤勝会長のもと、同窓間の親睦交流と母校の発展を願う活動を続けている。

今年の活動は、2月19日、総会を開催。7月22日、40周年記念納涼会として、貸切バスで母校赤山の松江北高起雲館(リニューアルされた資料

室)を訪ね、創立136年の松江北高校の歴史に触れ懐しい青春時代を思い出したいと考えている。そして、遊覧船を貸切り宍道湖・大橋川・中海を遊覧しながらの昼食懇親会をし、米子港に上陸する計画である。また、ゴルフ部会は、大山山麓の三つのゴルフ場をローテーションで毎月コンペを開催している。旅行部会は秋にバス旅行を予定している。

会員は米子市周辺でかなりの数在住・勤務されているが、各種行事活動等への参加は一部に限られているのが現状である。会員の拡大と若手会員に魅力ある会運営・諸活動が課題となっている。米子市および周辺部に在住または勤務の方で「米子双松会」にご入会いただける方は、左記までご連絡ください。

連絡先 米子双松会事務局
〒689-1340
米子市淀江町淀江771
TEL&FAX
0859-156-12315
中西 秀夫

広島双松会 支部だより

広島双松会 幹事長
石原 通弘(昭和37年卒・13期)

平成二十三年十一月に第六回総会を庄司隆会長、勝部昌幸校長、伊藤浩先生にご臨席賜り開催し、後述の活動計画等を決定しました。また、姉妹校であります松江南高の卒業生にご出席いただき、総会に華を添えていただきました。本年度は会の更なる活性化を図るため、役員会で対策を検討していきます。

設立以来同級生や職域を通じて口コミで情報を伝達することとしていますが、十分な周知が来ていません。会報をご覧ください。事務局へご連絡いただければ喜びます。

一、今年の活動計画

今年の活動は例年の総会・懇親会に、納涼親睦会一回、ゴルフコンペ二回程度開催して会員の親睦を深めます。

二、第七回総会・懇親会

日時 平成24年11月10日(土)
16時~19時

場所 広島ダイヤモンドホテル
広島市西区観音新町
21416

三、その他の行事予定

① 納涼親睦会

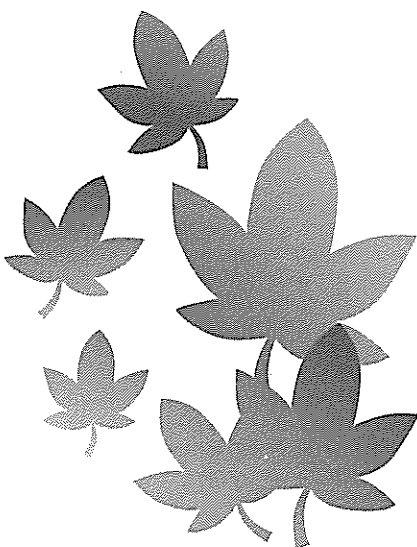
日時 平成24年8月1日(水)
場所 広島そごう本館
「カーサグランデ」
(広島市中区)

② 親睦ゴルフコンペ

日時 平成24年9月29日(土)
場所 宮島志和カンツリ倶楽部(東広島市志和町)

四、連絡先

・幹事長 石原 通弘
739-1742
広島市安佐北区亀崎一丁目29番26号
TEL&FAX
082-842-1416
・携帯電話
090-9507-12312
・E-Mail
ishihara2926@memail.ne.jp



第三十二回 通信制同窓会役員会報告

去る、7月7日(土)に松江市の東急インにおいて第32回の役員会を開催しました。母校の松江北高通信制が今年度で閉課程になり、同窓会として今後の運営の在り方を協議しました。

大きく変わるところは、一、名称を「通信制双松会」と改称する。二、役員体制は現在75名体制から15名にする。

三、役員会を総会にかえることとなっていたのを、原則として年一回全員対象の総会懇親会を開くに改める。

「さよなら松江北高通信」

いよいよ、来年3月17日をもって北高通信制が閉課程になります。最後の卒業式は松江北高で行われます。一昨年「さよなら赤山校舎」をして校舎に惜

別しましたが、この度はいよいよ最後のお別れです。

同窓会では別紙の案内の要領で最後の卒業式に参列し卒業生を送り、そして閉課程式、その後懇親会を計画しております。多数参加されますようお願いしております。

尚、新会則及び役員のお知らせは、同窓会の残務処理を終了して来年の双松会報に記載する予定です。

Table with financial data for 平成24年度 予算. Includes sections for 収入の部 (Income) and 支出の部 (Expenditure) with columns for 23年度予算, 24年度予算, and 増減.

Table with financial data for 平成23年度 決算報告. Includes sections for 収入の部 (Income) and 支出の部 (Expenditure) with columns for 23年度決算, 24年度決算, and 増減.

Table with financial data for 平成24年度 予算. Includes sections for 収入の部 (Income) and 支出の部 (Expenditure) with columns for 24年度予算 and 増減.

Table with financial data for 平成23年度 決算報告. Includes sections for 収入の部 (Income) and 支出の部 (Expenditure) with columns for 23年度決算 and 増減.

北高生の活躍

島根県高等学校総合体育大会 男子総合 第1位

5月下旬から6月上旬にかけて島根県内にて県総体が行われました。総合優勝奪還を目指し、各部熱戦を繰り広げましたが、残念ながら男女総合第4位となりました。また、男子総合は3年連続13度目の優勝を成し遂げました。

- 陸上競技部
男子 100m 第5位
3年 金森 和貴
200m 第6位
3年 金森 和貴
男子 100mH 第2位
3年 矢田 弦
男子 三段跳
3年 永田 遼

- 男子 4x100m R
男子 4x400m R
弓道部 女子団体 第4位
登山部 男子団体
ボート部
女子シングルスカル
3年 筑後 侑子

- テニス部 男子シングルス
3年 永原 賢造

文化部の活躍

八月に富山県で行われた全国高等学校総合文化祭に出場した部を紹介します。

- 百人一首かるた部
最優秀賞
2年 岡田 優
競技の部
2年 星野 詩織
2年 加瀬部美穂
2年 原田季美香
囲碁部
2年 藤原 里菜
将棋部
3年 吉持 主税
2年 稲田 有作
2年 長縄 悠太
放送部
朗読部門
2年 三島 志織

- その他の全国大会
NHK杯全国高等学校放送コンテスト
朗読部門
3年 加藤 虹帆
2年 三島 志織
全国英語スピーチコンテスト
(24年2月開催)
第6位
3年 大谷 慧

弓道部 全国優勝

弓道部が3月岐阜県にて開催された第30回全国高等学校弓道選抜大会に初出場し、初優勝という快挙を成し遂げました。団体での本校の全国優勝は、昭和58年合唱部のNHK全国学校音楽コンクール最優秀校受賞以来30年ぶりのこととなります。優勝の軌跡
58チーム中12射の

本年度の進路状況

今年度入試における国公立大の志願者総数は、前年度に比べ約九千人減で、志願倍率は前年の五・〇一倍から四・九一倍となりました。志願者減の主な原因と考えられるのは、難関大の後期日程廃止により、後期の出願が減少したことや、ここ2年増加傾向だった公立大の志願者が、その反動のためかかなり減少したためではないかと分析できます。

実質的な前期の国公立大の倍率は昨年とほぼ同じ三・四倍でした。学部や系統別の傾向としては「理高文低」の傾向がより鮮明となり、教員養成や医療系の資格系統の人氣が続いています。

「大学全入時代」と言われていますが、実際には「入れる大学」ではなく「入りたい大学」に志望は集中しています。実質的な「大学淘汰の時代」を迎えて、大学間の格差は拡大し、二極化が進んでいます。さらに、昨今の経済状況を反映して、学費が安価な国公立大への志向はまだまだ根強いものがあります。

今春の本校生徒の受験結果は、国公立大の合格者数延べ二一三名でした。これは昨年よりも二十名程度少ない結果です。今年度の入試は、センター試験の全国平均点の上昇により、出願の段階からかなり厳しいもの

になりそうだと予想されています。前述したとおり、後期日程廃止による国立大後期の合格者数が減ったことと、公立大の合格者が昨年度四十一名に対して今年度は二十八名であった点が全体の数字減の原因になっています。しかし、国立大の前期日程に限れば、合格者は昨年とほぼ同数でした。いわゆる難関国立大学の合格者数は東京大学四名、京都大学四名を含む、延べ四十四名。また、国公立大の医学部医学科の合格者数は十三名という結果で、どちらもほぼ例年並みの結果でした。

今年度の入試は、センター試験の全国平均点の上昇により、出願の段階からかなり厳しいものになることが予想されています。そうした状況の中で、本校生徒の受験結果は、数字の上ではまずまず健闘したと言えると思います。

毎年感じることですが、部活動や生徒会活動等で多忙を極めた北高の生徒達が、いよいよ学習に本腰を入れてからの学力の伸びには目を見張るものがあります。最後まで頑張った生徒達に対して素直に敬意を表したいと思えます。

受験に必要とされる力は、実は難問、奇問を解く力ではありません。解けるはずの問題を取りこぼさず確実に解く力だと言えます。その土台となる基礎、

基本を一、二年の間にじっくり身につけ、三年生になってからの模試や演習を繰り返すことでの実戦的な応用力を身につけていきます。

授業の予習と復習、部活動、課題の提出等、高校生の毎日は決して楽なものではありません。しかし、それに耐え、こつこつと力をため、地道に学習に取り組むこそが、受験だけでなく社会で生き抜いていく素地を作っていくことになるのだと思います。

「受験勉強」という特別な学習が存在するわけではありません。毎日を大切にしながら、忙しくとも充実した時間を過ごすことこそが彼らにとつての財産になるのです。

昨今の高校生、あるいは大学生の資格志向には、将来社会に出た時に、それまでに培ったスキルや知識を生かして活躍したい、という思いが反映されています。

しかし、学生側のその思いと、現実の社会が学生に求めるニーズには、ずれが生じてきています。

社会が求める資質は、端的に言えば、「世の中の変化にどれだけ柔軟に対応できるか」ということであり、またその変化に対応する力を身につけるために「常に学び続けることができる」ということです。こうした力は社会に出てから急に身につくものではありませんが、高校生活にはあらゆる機会にそうした力を

を培う場面があると思います。北高の学習や日々の生活を通して、そうした力を是非身につけていって欲しいものです。

受験は確かに大きなハードルではありますが、一つの通過点でしかありません。大切なことは、生涯を通して学び続ける人であることです。そのために目の前にあることに全力を尽くせる人でなければなりません。この北高でそうした生徒が一人でも多く育つてくれること。そして彼らが社会で大きく羽ばたいてくれることを願ってやみません。

進路状況

平成24年度入試学校種別合格者延べ数及び就職者数(平成24年4月集計)

Table with columns for graduation year (2022, 2023, 2024) and rows for school types (National, Public, Private, etc.) and total counts.

編集後記

昨年百三十五周年式典を終えてほっとする校内幹事に、今年度から双松会員の教員が増えるとの嬉しい知らせ。昨年度の9名から4名増えて13名になりました。長年校内幹事の要であった西村一子先生がご退職になりました。不安を抱えながらの出発ですが、皆様のご指導をいただき頑張っていきたいと思えます。

今年の北高では、春から生徒の活躍の報せが続々と入ってきています。春休みの弓道部の全国選抜初出場・初優勝。勝部前校長の退職を祝うかのような夕イミングでの吉報に、学校中が湧きました。

続いて7月の金森和貴君の世界ジュニア陸上出場、そして銅メダル受賞。インターネットでレースを見ましたが、JAPANNのユニフォームを着て、4x100メートルのアンカーとして、あのロンドンオリンピックを沸かせたアメリカ、ジャマイカに次いで3位でゴールする金森君の姿に大いに鼓舞されました。伝達式で銅メダルを金森君にかけてあげる河原校長も興奮気味でした。

そして本号締切直前に舞い込んできた岡田優さんのかたるた読手日本一の報せ。さらに弓道部の、春の優勝に次ぐ4位入賞。いずれも、技能だけでなく精神面での充実も求められる場面で力を発揮した北高生の心の強さを実感しました。

このほかに、目立った成果はなくても、着実に努力している生徒が大勢います。質実剛健の北高精神は、今も健在です。